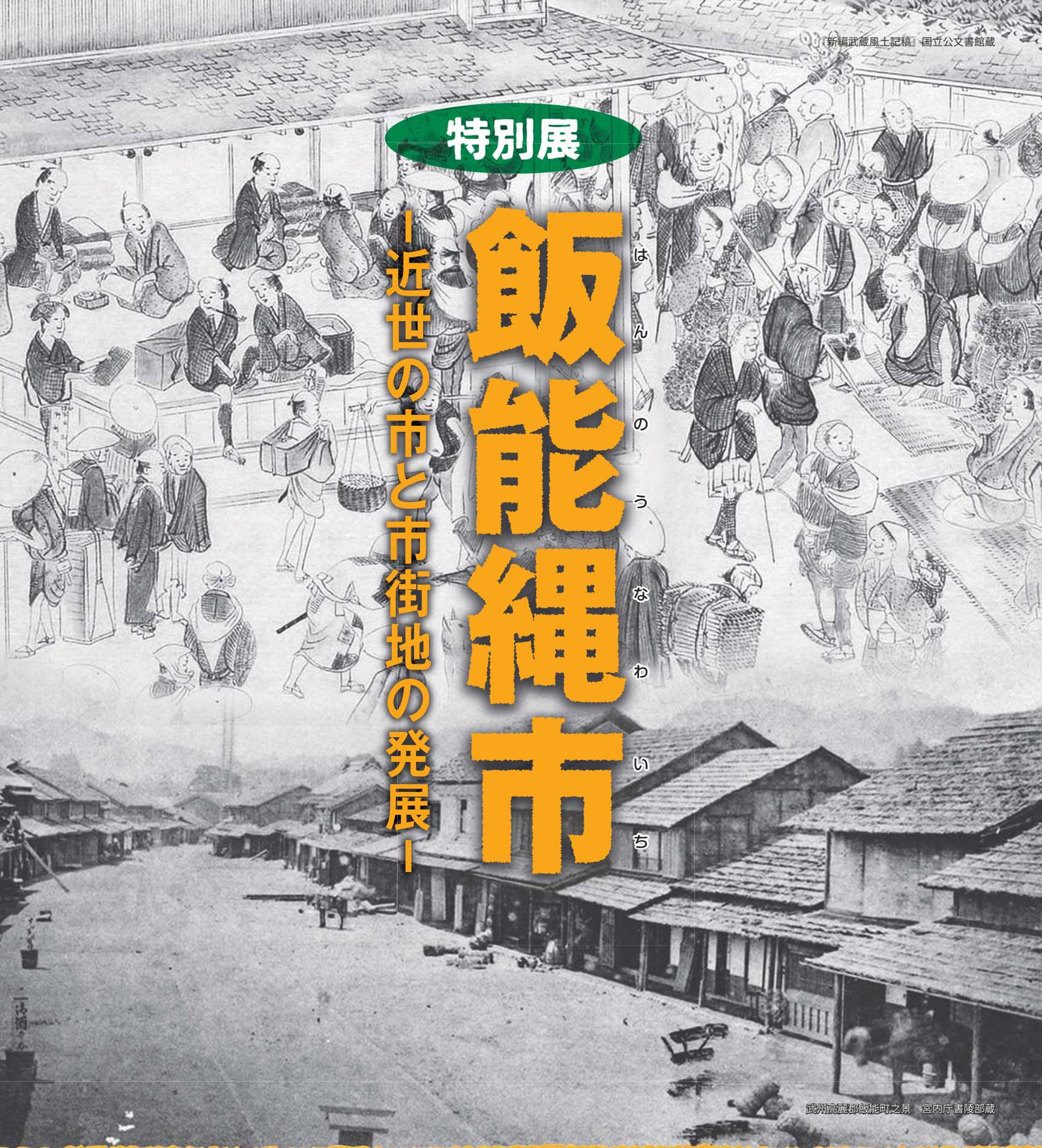


特別展

「近世の市と市街地の発展」

飯能縄市

はんのうなわいち



武州高麗郡飯能町之景 宮内庁書陵部蔵

令和3(2021)年 **10/17(日)~12/12(日)**

 **飯能市立博物館**
Hanno Municipal Museum 愛称: きっとす

・休館日/月曜日、11月4日(木)、11月24日(水)・開館時間/午前9時~午後5時
・入館無料・会場/飯能市立博物館きっとす 特別展示室

〒357-0063 埼玉県飯能市大字飯能258-1 TEL (042)972-1414 FAX (042)972-1431
<https://www.city.hanno.lg.jp/hall/museum>

※駐車場には限りがあります。ご来場の際は公共交通機関をご利用ください。
※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ご来館の際は「マスクの着用」「手指消毒」「ソーシャルディスタンスの確保」等へのご協力をお願いします。また、臨時休館等を行う場合がありますのでお出かけの際はホームページをご確認ください。



飯能駅北口または東飯能駅西口より名栗方面バス「市民会館・博物館」バス停下車徒歩3分、または西武飯能日高方面バス「OH!!!・天覧山下」バス停下車徒歩5分



ホームページ



Twitter



Facebook

特別展

飯能縄市 — 近世の市と市街地の発展 —

〔展示の趣旨〕

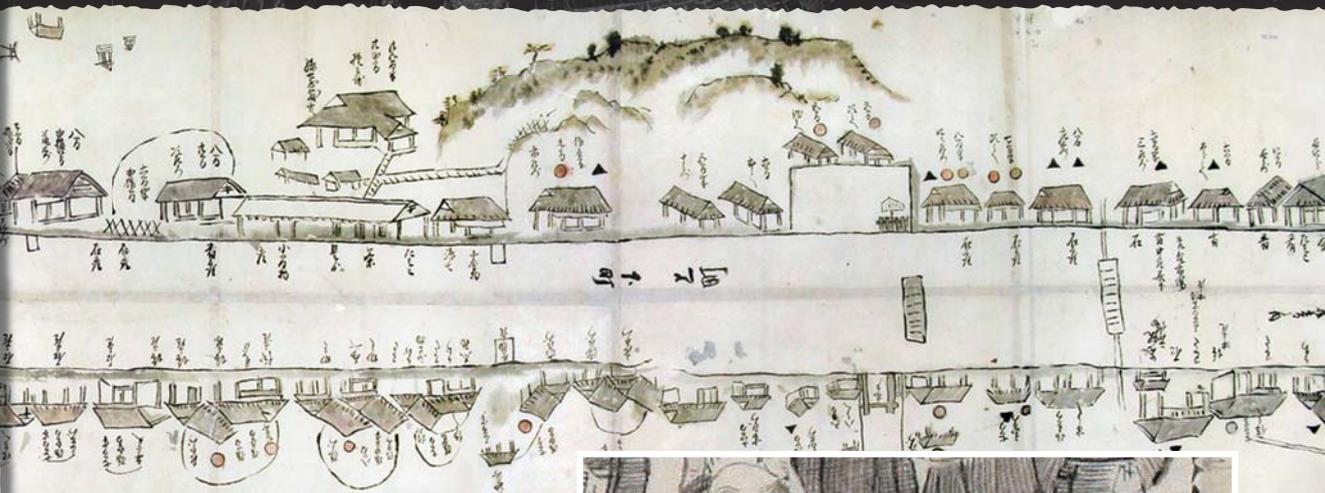
どこの町にも中心市街地といわれる場所があります。近年、バイパスなど新しくできた広い道路沿いにショッピングモールや電気店などの大規模な店舗が立つようになり、こうした風景は、全国どこへ行ってもそれほど変わらないように思えます。町の個性が感じられなくなっているのです。

中心市街地の起源をたどると多くが江戸時代の定期市につながります。定期市は、単に人々が生活必需品を求めるだけでなく、その立地や成り立ちなどに規定されてその地域の特産物が集まる場所でもありました。それがその町独特の雰囲気や建物の景観を作っていたのです。

飯能の市街地は、17世紀に始まった月6回の定期市、「縄市」に始まります。この展示では、武蔵国西部地域(東京都多摩地区と埼玉県)や上野国(群馬県)に発達した定期市の資料の助けを借りながら、飯能縄市の様子をイメージしてもらいます。そしてそこから始まる飯能の市街地の歴史を振り返ることで改めてその魅力を考えていただきたいと思います。



飯能・中町寄進幟



通りに面して出された見世(座)(室田宿市場絵図・部分) 個人蔵



市杭(中之条町) 個人蔵



筵(『新編武蔵風土記稿』より) 国立公文書館蔵

*** 特別展関連イベント *** ※関連イベントの申し込み及び参加方法等は、ホームページをご覧ください。

◎関連講座

①「近世の在方市と商人」

11月6日(土) 午後2時～4時

講師/杉森玲子氏(東京大学史料編纂所教授)

●会場: ①・②ともに飯能市市民会館会議室202 ●定員: 各回30名(要申込・申込順で受付)

②「近世武蔵国の定期市と飯能六斎市」

11月13日(土) 午後2時～4時

講師/渡邊英明氏(関西大学非常勤講師)

◎現地見学会

市内の歴史的建造物について、外観からその魅力を探っていきます。(一部建物内部見学あり)

11月27日(土) 午後1時30分～3時30分

講師/浅野正敏氏(一級建築士) 見学場所/入口電業・店蔵絹基・中清米店・住田屋など

●定員/10名(要申込・申込順で受付)

◎飯能まちなか探検隊

クイズを解きながら飯能のまちなかに昔からある建物を探しに行こう!

10月17日(日)～12月12日(日)

対象/小学生以下

●参加用紙は博物館窓口で配布します。

※申込不要 ※休館日は除く



飯能市立博物館 Hanno Municipal Museum 愛称: きつとず